



広島県支部会報



平成26年12月29日

第71号「地域防災リーダー養成講座」

— 第1講義「防災士の役割」 —

[福山大学平成26年度 地域防災リーダー養成講座]

日時：12月20日8時30～15時30分 担当講義（9時～10時）

場所：福山市学園町1番地三蔵 福山大学1号館2階 01201教室・

主催：福山大学及び福山大学 安全安心防災教育研究センター

協賛：国土交通省中国地方整備局、広島県、福山市、日本防災士会広島県支部、

日本気象予報士会広島県支部、福山西学区自主防災協議会

受講者：48人

[本講座の目的]

福山大学では平成25年に学生を対象として「地域防災リーダー養成講座」を開講された。近年予想を超える災害を経験するに至り、防災士の役割が益々重要になっており、地域の関係機関の協力により地域において「防災士の知識習得の防災リーダー養成講座」を開講することになった。日本防災士会広島県支部は要請を受けて第1回講座の講義[防災士の役割]を担当した。

講義題目： [防災士の役割]

講師： 広島県支部 防災士 桑木光信

- ・災害の多い我が国では防災士は災害から地域社会を守る重要な役割を背負った存在です。災害に強い地域社会をつくることは人命を守ると共に、地域の文化や財産を守ることであります。防災・減災には設備や施設のハードが重要です。加えて防災士としての知識、技能、技術、連携、協力、支援、訓練等の防災・減災ソフトが必要です。

以下講義の概要を紹介します；

- ・講義目次

①. 防災士の基本認識 ②. 「阪神淡路大震災」の教訓 ③. 防災士の目的と使命 ④. 全国の防災士活動事例紹介 ⑤. 広島県支部の活動と活動事例紹介 ⑥. 防災士の役割と期待！

1. 防災士の基本認識

(1) 日本は災害列島で安全地帯はなし(2) 自助・共助・公助の連携で防災協働社会を実現

(3) 平時から防災への備えが大切、起きてからでは間に合わない(4) 公的機関も被災する！
自助、共助が救助、避難の先端で協力する

2. 「阪神淡路大震災」の教訓

事前の防災対策と災害発生時の応急対応が必要 → 民間の防災リーダーを拡大・養成する
事が急務 → 防災士制度の原点

- ・ 防災士は 2003 年 10 月に誕生
- ・ 2014 年 11 月 30 日 現在
- ・ 防災士数 84,831 人 → 長期目標防災士数 300,000 人
- ・ 日本防災士会員数 6,082 人
- ・ (同上広島県支部 138 人)

3. 防災士の目的と使命

- ・ 平常時の活動 : 事前対策・予防対策、市民啓発活動、自主防災活動
- ・ 災害発生時の活動 : 応急対応、被災地復旧、復興支援
- ・ 体験の伝承など (阪神淡路大震災等)

4. 全国の防災士活動事例紹介

- (1) 自主防災組織を立ち上げる 松尾防災士 (埼玉県)
- (2) 学校で実践的防災訓練を指導 菊池防災士 (東京都)
- (3) 家具固定の勉強会を実施 岩井防災士 (岐阜県)
- (4) 応急手当講習で 4000 人を教える 宇津江夫妻防災士 (兵庫県)
- (5) 2006 年 6 月岩手・宮城内陸地震 佐藤郵便局長 (宮城県)

～

- (11) 学校防災アドバイザーとして活躍 神奈川県、富山県、香川県、長崎県

～

- (14) 2014 年 8 月土砂災害、兵庫県丹波市、広島県安佐地区、兵庫県丹波市

5. 広島県支部の活動と活動事例紹介

- ・ 設立 2008 年 9 月 27 日
- ・ 地区構成 (2014 年 11 月末) 県内 5 地区で登録会員 138 人
- ・ 目的: 本支部は「自助」、「共助」の原則のもと、支部会員のネットワークを構築し、防災士としての活動と技術研鑽を支援する事を目的とする
- ・ 事業:
 - ① 防災士としての活動と防災・減災技能の研鑽に資する事業
 - ② 防災士の育成に資する事業
 - ③ 支部会員相互の交流に資する事業
 - ④ 訓練・講習会及び研修会等の開催・参加に関する事業
 - ⑤ 日本防災士会が計画・実施する関連事業については会員のみの参加とす
 - ⑥ その他、本支部の目的を達成するために必要な事業
- ・ 活動事例紹介

- ① 「日本防災士会スキルアップ研修」
 (身近な防災対策) 兵庫県防災士会副理事長 寺岡芳孝防災士
 (地域防災と防災士の役割) 日本防災士会副理事長 松尾好将防災士
 (学校の防災体制・防災教育) 山口県支部事務局長 幸坂美彦防災士
- ② 「広島県南東部地区活動」 — 赤十字救急法基礎講習 — 支部会員指導
- ③ 同 上 — 災害写真、非常持出品、非常食品等展示説明 — 支部会員担当

6. 防災士の役割と期待！

- ・「助けられる人から助ける人へ！」
- ・自分が大災害から無事生き延びる。そして周囲の人に手をさしのべる。
- ・災害から地域を守り、最小限の被害に留める地域防災の担い手となる。
- ・災害の多い地球上でハード面の防災対策に加え、「人」の知恵、意識、協力・連携と教育によって築かれる「防災ソフト」が必要。
- ・そこには安全な地域や国づくりに向けた夢があり、やり甲斐があります。
- ・互いに災害に強い安全な地域、まちづくりに取り組もう！

あとがき：

今年には災害が多く発生、「広島土砂災害」は予想外の大規模被害であった。災害後、行政や県民には防災意識と防災・減災体制の取り組みが見直されている。今回大学が開講された「地域防災リーダー養成講座」受講者の皆さんには地域の期待が大である。防災士としての資格を備えられ、共に協力して地域の安全防災活動に取り組む事を期待する。なお、本講義の原稿には日本防災士会事務局作成のものを使用している。

(広報担当 桑木)



終り